

報社神社祖天神明上

第186号 平成25年3月1日



社頭所感

天祖神社宮司 斎藤篤信

早春の候、氏子崇敬者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当社社の維持運営にご理解、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。さて本年は当社社御鎮座六百九十年、また蛇窪村が上蛇窪村と下蛇窪村の分村から、ちょうど三百七十年の節目にあたります。さらに十二年に一度の巳年でもあり、蛇窪にとつては特別な年といえます。

この分村を記念して、当社では三十年前より、氏子五町会の町神輿が各神酒所を巡拝する連合渡御を十年毎に行っておりますが、本年はいよいよその年を迎えることとなり、さらには長年の念願であった下神明天祖神社との「上下分村三百七十年分村記念式典」という形で実現されることとなりました。

この合同行事については以前より下神明天祖神社の宮司様と「ご祭神のためにいつか二社合同でやるう」とお話して参りました。そして今から五年前、下神明天祖神社の総代会に申し入れを行い今日に至るまで交渉を続けて参りました。その結果、ついに本年九月十五日にのんき通りで大神輿十二基全基の集結が叶うこととなりました。ここに甚大なるご理解とご尽力をいただいた上下の役員総代様をはじめ、関係者各位の皆様に対し、この上ない喜びと感謝を申し上げます。

今回の連合渡御でも例年の如く、日没とともに神輿に明かりを灯し、クライマックスに上神明小学校校庭に入つて、大神輿の神輿練りと和太鼓のコラボレーションを行う予定です。これは当社社創建の史実にある東京埼玉一帯の大危機を救った六百九十年前の雨乞いの断食祈願をドラマティックに再現したものです。さらに大神輿が中央に円を描くように集結して、同時に差し上げる時、千年以上前からこの蛇窪に鎮まる龍神さまが空を舞い、大海原にいかり火が灯されているような幻想的空間が現出されます。担ぎ手から観衆まで千人以上の人々の気持ちが一つになり、国家の安泰を祈る神事です。

本年は御鎮座六百九十年・上下分村三百七十年、そして巳年にあたる、まさに神がかりな年といえます。この記念すべき佳節に、蛇窪大祭として奉仕し、神さまへ感謝を捧げ、さらに町の繁栄を真心こめてお祈り申し上げる所存です。

平成二十五年歳旦祭（奉納者御芳名）

（敬称略・順不同）

三睦 会	金子 恒治	湯浅 陽子	吉田 恒治	金子 恒治	吉田 恒治	安西 政男	西沢 完治	本橋 武	高橋由美子	山田 孝子	武藤 章	阿部 林野	武藤貴美子	森谷 辰雄	青木 雪子	富田淡登美	吉田 敬一	野秋 清	平田 秀樹	上村 幸子	栗原 功明	今井 康雄	青柳 富子	勝見佐知子	勝見 修子	石橋 良一	小澤 邦彦	谷川 寛	土屋富美子	寺平 慎一	栗田 恵造	伊勢元酒店	豊五会清水	伊勢元酒店	草柳 洋一	松井 清一	小宮 進	高橋 友一	鈴木 勝美	林 哲嗣	川井 善則	太田政一郎	太田 忠良	小林 政敏	上村 和雄	櫻井 崇博	太田 絹江	太田 明	遠藤 正	鈴木 吉和	高須みちよ	川島 忠雄	矢羽 直公	森谷 知行	平澤 晴雄	金子省太郎	井渕 良子	温井 賢伸	磯 昭夫	佐藤 昭夫	吉田 吉末	吉田 吉末
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------

〈御神酒〉

〈御菓子、果物〉

原 昭夫	池田 靖光	高瀬比呂史	海野 雅美	吉田 吉末	押田 一子	木下 晃一	望月美津穂	斎藤 恭子	柴田よし子	ケンモチ	斎藤 朋子	茅根 汐里	石橋 良一	本吉 正夫	鳥居 啓子	佐藤 慶子	松 栄 堂	市原 勝祐	石川 一郎	笹本三樹雄	〈御神米〉	高瀬 雅子	関根さな江	塩野 修	高瀬八州史	川瀬 次夫	芹沢 明	石川 幸子	尾内 正行	古舘 秀也	石川 三智	幸田與志郎	西澤 完治	茅根 浩子	石毛 潔	昆 秀光	松谷 幸雄	山形原 〈啓翁桜〉	昆 良子	東 了	鈴木 勝治	金子由美子	新堀 和哉	芦沢 明
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	--------------	------	-----	-------	-------	-------	------

〈金封〉

（敬称略・順不同）

海野 雅美	桜井 卓	蘭部 万雄	平野 秀樹	大野 由美子	青柳 富子	川井工務店	野村 幸子	上村 次夫	川瀬 和子	市居 啓子	鳥居 雪子	青木 良子	井渕 吉和	鈴木 吉和	越藤 武路	佐藤 利正	遠藤 賢伸	温井 賢伸	湯浅 陽子	塚田 正實	島田 一憲	成田 美和子	平澤 省太郎	金子 美智子	本橋 明子	井村 代志子	武藤 恒治	金子 恒治	幸田 與志郎	櫻井 崇博	大山 忠一	草柳 洋一
-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------

〈御神米〉

今井 精米店

〈御神酒〉

伏見稲荷
幸田 與志郎

伊勢元酒店

〈御菓子〉

井渕 良子

鉦立 ツイ子

武藤 代志子

金子 恒治

平田 貴子

〈御玉子〉

金子 恒治

金子 由美子

なごやかに執り行われた
初午祭

二月九日、十一時より当社稲荷社の初午祭が執り行われました例年のごとく神社手作りの直会の後、豊町六丁目 西沢社中の方々による抹茶の接待がございました。

当社のお稲荷さまは、京都伏見稲荷大社の御分霊をお祀り申し上げております。御神徳は、衣食住を司り、私たちの稼業繁栄・家内安全を昼夜の別なくお守護下さっています。

祈年祭齋行

二月十七日（十時）祈年祭「としごいのまつり」が執り行われました。

今年も大神様のみ恵みをお願いして五穀豊穡と国家安泰をご祈念申し上げます。

厳修裡に執り行われた歳旦祭

平成二十五年新春を迎え御皇室の弥栄と萬民のご健勝を祈る歳旦祭が執り行われました。

当日は、晴天に恵まれ氏子総代会々長草柳洋一様、名誉総代 松井清一様、高橋友一様、光陽産業㈱社長 大山忠一様、崇敬者多数のご参列のもと式典が斎行されました。

今年も上蛇会(遠藤 彰会長)の有志の方々がお手伝い下さりまして、式典前の迎え囃子、直会終了後の送り囃子のご奉納があり初詣で賑わう境内を盛り上げて下さいました。

週刊女性3月5日号に白蛇様の記事が

見開き2ページにわたり掲載されました。

弁財天祭りのご案内

四月十四日(日)午前十一時より弁財天例祭を執り行います。

白蛇の石は、本年最後の御開帳になります。

御参列の費用は決まりはなく、お気持を祝儀袋(小さいものでも構いません)に入れて受付所に納めていただいております。事前の申し込みはいいませんが、諸準備のため電話でお名前だけ伺っております。

宮司の祝詞奏上後に御参列者一人一人に玉串(お榊)を御神前へお供えして感謝の気持ちやお願いを祈りいただきます。式典後、甘酒の接待がございます。

今年、巳年なので特別に豊町六丁目 西沢社中の方々の抹茶の接待がございます。

寒さの中での節分祭

二月三日 午後六時より節分祭が行われました。お子様方は、拜殿でお祓いを受け境内に現れた赤鬼と青鬼に「枀まき」に入った豆を「鬼は外、福は内!」とかけ声もいさましくまきました。終了後は、ご参加のお子様方に福豆とお菓子をご呈いたしました。

君が代を斎唱し

応時を忍び執り行われた

建国記念祭

二月十一日建国記念祭が職員一同参列のもと、厳肅に執り行われました。

宮司祝詞奏上に続き「君が代」、「紀元節」を全員で斎唱し建国の悠久の昔を忍びました。

平成二十四年度分

崇敬会費ご納入のお願い

三月早々平成二十四年度分天祖神社崇敬会費のご納入のお願いに参上いたします。

出費多端の折柄、誠に恐縮ではございますが、その節はよろしくご協力の程お願い申し上げます。訪問者は二葉四丁目在住の岡保幸様が神社事務員としてお伺いいたします。宜しくお願いいたします。

伊勢神宮式年遷宮の

文化的しきたりの意義

遷宮とは、新しいお宮を造って大御神にお遷りを願うことで、式年とは、定まれた年を意味します。神宮には、内宮、外宮ともそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、二十年ごとに同じ形の社殿を交互に新しく造り替えます。神社の御装束、神宝も新しくされるのです。

式年遷宮では、約八〇〇種、一六〇〇点の御装束、神宝を古式により新しく作り殿内に納められます。古代のままに、その時代、時代の最高の刀工、金工、漆工、織工など美術工芸家によって調製されています。

しかし、太刀の材料の玉鋼、染色料、国産絹糸等、御料の入手が難しく、和鉄精錬の技法の継承者も少なくなりました。染色家、錦織や組紐などの技術者も後継が実に困難な状況になってきています。

このような中で、二十年毎に繰り返すしきたりにより、これらの技術も受け継がれて来ました。

私たち日本人の生活や社会を支える文化も同時に育まれて来ました。ここに遷宮祭の意義があるのだと思います。

生命の言葉(三月)

苦境にあつても天を恨まず

宮城眞気仙沼市

階上中学校卒業生代表の言葉

東日本大震災の直後の三月二十二日に、宮城
県階上中学校、梶原裕太君が読んだ卒業生代表
の言葉の一文。以下抜粋。

「階上中学校といえは『防災教育』といわれ、
内外から高く評価され、十分な訓練もしていた
私たちでした。しかし、自然の猛威の前には人
間の力はあまりにも無力で、私達から大切なも
のを容赦なく奪っていきました。天が与えた試
練というにはむすぎるものでした。つらくて、
悔しくて、たまりません。…生かされた者とし
て頭を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、
正しく、たくましく生きていかなければなりま
せん。命の重さを知るには、大きすぎる代償で
した。

しかし、苦境にあつても天を恨まず、運命に
耐え助け合つて生きていくことが、これからの
私達の使命です。

…後輩の皆さん、階上中学校で過(こ)す『あた
りまえ』に思える日々や友達が、いかに貴重な
ものかを考え、いとおしんで過(こ)してください。
…最後に、本当に、本当に、ありがとう(ご)うござ
いました。」

月次祭

当社では毎月一日午前七時より、その月の氏子
の皆様の家内安全を祈る月次祭を行つておりま
す。当日は御神前にて祭儀を厳修し参列者一同で
「大祓詞」を奉唱し、次いで社務所にて「朝粥」
を食し歓談いたします。

★二月一日に参列なさつた方々のご芳名

草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様、
柵木ヒサ様、井瀬良子様、高須みちよ様
富田登美子様、青柳富士様

心のふるさと

弁財天のいわれ

鎌倉時代、天祖神社の社殿の左横(現在の消防団
詰所付近)に清水が湧き出る洗い場があり、そこに
白蛇が住んでいました。

時移り、いつのまにか洗い場がなくなり、やむな
く白蛇は現在の戸越公園の池に移り住むようになり
ました。

あるとき、土地の旧家森谷友吉氏の夢枕に白蛇が
現れ「二日も早くもとの住みかに帰してほしい」と
懇願しました。

森谷氏はこの話を宮司に伝えて、白蛇をもとにも
どすようお願いしました。宮司は、森谷氏の願い出に
より弁天社を建立することに決め、現在の駐車場地

に池を掘り、池の中央に小島を設け、その中の石窟
に石祠を造つて白蛇を祀ることにしました。

古老の話によれば白蛇を迎える日の夜、いよいよ
お迎えの祝詞を奉上しようとしたとき、それまでの
かがやくばかりの星空が一天にわかにかき曇り、雷
鳴とともに大風が立ち起こり、そのさまは身のすく
む思いだったということです。

戦後昭和二十九年に櫻井昌利氏をはじめ有志の
方々の御浄財により、お社は現在地に移され、上屋
や弁天池なども造営されました。

当地名が蛇窪と言われた由来から考えてみても、
天祖神社は弁天さまと蛇との密接な因縁があること
が理解されます。

白蛇は弁天様の使者として、いつまでもおそば近
くで弁天様をお護りしています。それはちようど、
私たち氏子全体を護っていてくれるようでもありま
す。白蛇は、この土地や私たち住民の守護神のよう
な気がしてならないのです。

〒一四一〇〇四三
東京都品川区三葉四一四一十二
天祖神社々務所

TEL 〇三(三七八)一七一
http://www.hebikubo.jp